大日化成

ECOへの取り組み

ECOLOGY

大日化成株式会社は、環境に配慮した事業の推進を目指す企業として積極的にエコ活動に取り組み、地球環境の保全と向上に貢献していきます。

みなさん、ご存知でしたか。

大日化成の工場がある岡山県は『晴れの国おかやま』を県の標語としていますが、その由来は、降水量1ミリ以上の日数が全国最小であること。今年も暑い夏がやってきました。

大日化成は2007年にチャレンジ25（旧チームマイナス6％）に参加し、その一環として岡山工場事務所の冷房温度を28度に設定しました。

しかし、同じ事務所内でもパソコン等のOA機器が並んでいる場所は温度が上昇し、特に西側は西日の影響なのか、温度計で測定してみると30度を越えていました。そこで少しでも室温を下げようと窓に簾（すだれ）を付けてみましたが、コンクリート壁自体が蓄熱しているためほとんど効果がありません。

そこで思いついたのがゴーヤによる緑のカーテンです。5月初旬に苗を植え、梅雨明け頃には写真のように青々と茂りました。

事務所内の温度差も小さくなりまた収穫したゴーヤを食すことができ、まさに一石二鳥です。

ひと夏のゴーヤの収穫量は100個を超え、従業員が持ち帰るだけではなく、来場されるお客様にもお持ち帰りいただき喜ばれています。

ゴーヤで緑化を始めて早5年、今年は事務所の南側にナス、キュウリ、ししとう、ミニトマトの植え付けにも挑戦し、収穫の喜びを味わっています。

来年は、弊社の高反射塗料ビッグサントップURを外壁に塗装することで更なるエコに取り組もうと計画しています。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

こんにちは！いつもご利用ありがとうございます。東京支店

私が勤務しておりますUR（高反射塗料）を使用した、ビッグサントップ。昨年8月に現在の事務所に引っ越しました。

1年2社に入社しておりますが、実は私は転職組。浜松町のオフィスで、ずっと事務所の移転に関わってきました。

事務所の移転は、運送業者様が決まるまで、仕事が終わらなかったり、運搬中に大慌てでお荷物を破損してしまったりと、大変でした。

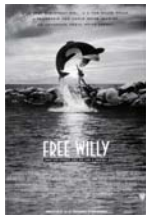
新事務所の広さは、旧事務所の2倍ほどあり、ゆったりとした環境で、新しい事務所に移転できたことは、とても幸せだと思います。

仕事の合間に、ふと窓の外を見ると、ここの街並みが映るのでちょっと自慢出来ます。

東京支店
伊藤　理絵

Vol.13 映画で学ぶ環境問題

フリーウイリー　（Free Willy）



公開　：1993年
制作総指揮：リチャード・ドナー
監督　：サイモン・ウィンサー
出演　：ケイコ（シャチのウイリー）
　　ジェーソン・ジェームズ・リクター
上映時間　：112分
ロケ地　：米国ワシントン州サンファン諸島、他

小学校で鑑賞映画にも使われていたこの映画は、シャチという動物と親に見捨てられた少年との、心の交流を軸としています。

「非行少年と純粋な心をもった動物の友情により非行少年が立ち直り、一部の心ない大人をギャフンと言わせる」という内容は、動物モノによくありがちなお約束通りのストーリーで、子ども達やファミリー層をターゲットにしているせいか、最後はすべてが丸くおさまります。

ストーリーは単純で、小さな頃に母親に捨てられ、孤児院で生活をしていた少年・ジェシー。彼は「いつかママが迎えに来る」という希望を捨てられず、施設を脱走して盗みを繰り返します。

ある日警察から逃げるためにもぐりこんだ私立水族館で、シャチのウイリーと出会うのですが、ウイリーは野生のシャチだったにも関わらず、金儲け目当ての水族館側に捕まえられ、家族と引き離されていたのです。大海原で両親や兄弟とともに幸せに暮らしていた頃と一変し、狭い水槽で人間不信に陥っているウイリー。シャチと人間という垣根を越えて、いつしかジェシーとウイリーは強い信頼関係で結ばれます。

それまでは誰の言うことも聞かなかったウイリーが、少年ジェシーの言うことなら何でも聞くことに気づいた水族館は、彼らの関係を金儲けに利用しようと、シャチのショーを目玉イベントに大宣伝をおこないます。

変に自信がついたジェシーもつい、その流れにのってしまい、自分の名声のためにウイリーとの友情を犠牲にしてしまいます。すっかり仲違いしてしまったジェシーとウイリーを軸に、再び、信頼関係を取り戻すストーリーには、やや「子供だまし」と違和感を覚えながらも、ハッピーエンドに胸をなでおろしてしまいました。

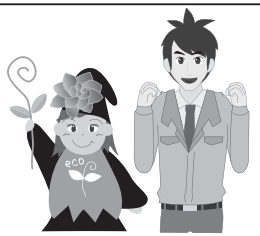
さて、野生のシャチは、大海原を一生、家族とともに過ごします。家族群で生活する海洋動物は他にもいるようですが、特にシャチは家族の絆が強いようです。

現に、1965年にはカナダのブリティッシュコロンビア沖で、サケ漁の網にたまたま捕獲されてしまったシャチが、船に引っ張られた生簀（水中の檻）に入れられ、約720km先のシアトルまで移動する事になった際、その船にずっと家族（たしか母シャチ）が付き添ってきた実話があります。このシャチの親子は当時、かなり話題になったため、本作の土台になっているのかもしれません。

本作でも、水族館の外海では、ウイリーの家族が彼を心配して、沿岸から離れないシーンが出てくるのですが、タイトルの「フリーウイリー」の「フリー」とは、「解放」や「自由にする」という意味で、ウイリーを家族の元に返してあげたいというジェシーの想いがこもっています。

一般的に、人間の大人は、子供の情操教育として動物園や水族館に行くことに何ら疑問をもちませんが、その陰には、ウイリーのように引きさかれた家族がいるのかと思うと、環境問題以前に、やや考えさせられる映画です。

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.
●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京支店
〒105-0013　東京都港区浜松町1-2-5
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803



次号もお楽しみに

URL：http://www.dainichikasei.co.jp